

1 学校として目指す授業

主体的・対話的で深い学びを実現するため、見通しをもって授業づくりを行う

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析 (中学校3年生)

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
国語・数学・英語のいずれの教科でも全国の平均正答率を上回っているが、数学・英語に関しては、東京都の平均を下回っている。また、数学・英語は二極化しておりD層に位置する生徒の底上げが必要になってくる。また、国語・英語ともに書くことの正答率が全国・東京都の正答率よりも低くなっている。	国語・数学・英語の勉強は好きですかという質問に対して肯定的回答の割合は、それぞれ69%・60%・49%となっており、学力調査の正答率もこの順番で低くなっているため、好きではない教科ほど苦手意識があることがわかる。また、英語の勉強は好きですかという質問に対する肯定的回答の割合は東京都・全国の平均も下回っており、全体的に英語を苦手としていることがわかる。

(2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析

国語・社会・数学・英語の4教科では授業の内容がよくわかる・わかるの割合が全国の割合と比べて1~5%程度高いが、理科に関しては7%程度低い数値となっている。また、それぞれの学習が得意・どちらかといえば得意の割合の合計をみても、理科だけ全国よりも低い数値となっており、理科に苦手意識を感じている生徒が多いことがわかる。また、学年を追うごとにどちらの数値も低くなってきている。学習時間を学年別にみると、1日1時間以上家庭学習をしている割合は1年生では72%いるが2年生になると36%に半減しており、学習時間が減ることもこの一因として考えられる。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析

国語・数学いずれの調査でも、正答率の平均は市内・全国と比べても上回っている。また、それぞれの教科の観点別の正答率をみても、国語・数学ともに3つの観点で市内・全国の平均を上回っている。しかし、領域別の正答率をみても、国語の「我が国の言語文化に関する事項」や数学の「データの活用」の領域で全国の平均をそれぞれ3.6%、1.4%下回っている。基礎問題と活用問題の正答率を比較すると、どちらも目標値を超えてはいるが、数値をみると国語は基礎問題がやや苦手の傾向にあり、数学は活用問題がやや苦手の傾向がみられる。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

・学校評価アンケート(生徒用)の「先生方はわかりやすい授業を行ってくれている」という質問に対する肯定的回答(あてはまる・どちらかといえばあてはまる)の割合が、R3年度は87%だがR4年度では89%に増加している。しかし、学年によって肯定的回答の割合が83%~93%と幅があるため、全体的に底上げをしていく必要がある。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

R5年度の全国学力調査の結果を見ると、国語と英語の「書くこと」の正答率の割合が東京都・全国の平均よりも低く、課題があることがわかる。また、普段の授業の様子や定期考査の結果等を見ると、テストの点数だけでは図れない、課題について話し合ったり、まとめたり、発表したりする力がまだ不十分である。

【授業改善推進プランの活用法】

- 「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- 「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。
- 「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- 「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- 「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。
- 12月末に実施状況进行评估し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

・対話的な学びの実現を目指すために、協働して課題を解決する学習を取り入れる

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1 学年	人数を工夫し、様々な条件で自分の意見を自分の言葉で他者に伝える機会を設ける。		ICTを活用した地図・資料の提示で興味・関心を深めつつ、基礎基本の定着を図る。		課題解決のための小グループでの話し合い活動の機会を積極的に設ける。		計算演習や実験授業を通して学びあうことで、学習内容をより定着できるよう指導する。		・曲想についてグループで話し合い発表したり、合奏、合唱を通じて学び合いを深める。		計画的に鑑賞の授業を設定し、お互いの作品への思いや考えを伝え合う機会を設ける。		グループ学習を通して互いの良い所や改善点などを話し合わせる機会を設ける。		・対話的な活動により課題解決を目指す。 ・話し合い活動や調理・裁縫実習を通して仲間と協働する。		QA活動などを通して、自分の意見や考えを積極的に表現できる場面を設定していく。		講演や体験活動を充実させ、道徳的な判断力や互いに認め合い自他を尊重する心情を育てる。	
2 学年	ICTを活用して個々の意見を生徒同士で対話しながら整理してまとめているようにする。		様々な資料から必要な内容を自ら選択し、考察する活動を意図的に設定する。		様々な解法のある問題を取り入れるなどし、考え方を発表しあう機会を意図的に設ける。		実験の考察や問題演習では、ICT機器を活用したり、教え合ったりすること機会を設ける。		・曲想についてグループで話し合い発表したり、合奏、合唱を通じて学び合いを深める。		鑑賞の時間を通して主体的に造形的な良さや美しさを感じ取り、伝え合う機会を設ける。		個人種目においても生徒同士が教え合ったり話し合ったりする機会を多く取り入れる。		・実践的な実習を通して効率、加工法を協働により進める。 ・ICTを活用しつつ、他者の考え方から自分の考えや視野を広げる。		QA、チャット活動等を通して即興での対話活動を行う。互いの表現を学びあい、表現の幅を広げる。		個別で考える場面对話を通して考える場面を設定し、今後の生き方や在り方を学んでいく。	
3 学年	批評する視点を意識させながら交流し、他者の意見から自分の考えを深めていく活動を行う。		資料を読み取る力を発展させ、背景や情勢を踏まえて考察し、資料を読み解く力を育成する。		グラフ等用いて説明はできているが、証明等で理由を述べる活動を取り入れる必要がある。		新聞や動画等を用いた学習を行い、普段の生活と関連付けて考える時間を設けるようにする。		・曲想についてグループで話し合い発表したり器楽演奏、合唱を通じて学び合いを深める。		鑑賞の時間を通して作者の心情や表現意図を伝え合う機会を設ける。		様々な種目で生徒同士が教え合ったり話し合ったりする機会を多く取り入れる。		・ITCの活用を通してソフトの利用、情報活用のモラルを深く理解する。 ・調理・裁縫実習を通して、仲間と協働し学びを深める。		教科書のテーマに即した自己表現活動(話すこと、書くこと)を単元の終わりに設定する。		考えを共有して、今後の生き方や在り方に繋げる話し合いの場を意図的に設けていく。	